

## 令和2年度 須崎市教育委員会の自己点検・評価シート

令和3年3月31日

### 自己点検・評価の考え方

教育委員会は、市長から独立した5人の教育委員の合議制の委員会が決定する教育行政の基本的方針に基づき、教育長及び事務局が具体的な事務の執行を行っています。その執行状況について、点検及び評価を行い、結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとなっています。教育委員会が教育行政事務の成果や課題を自ら確認することで、以後の施策の改善に反映させ、より良い、効果的な教育行政の推進を図ることとします。具体的には下記の項目に整理し、ABCD評価で表します。

- A：成果が上がり目標を十分に達成している。      B：一定の成果が上がっているが目標達成までには至っていない。  
 C：一定の成果が上がっているものの改善の必要がある。      D：成果がほとんど上がっておらず見直しの必要がある。

大項目	中項目	小項目	評価	点検事項等
1 教 育 委 員 会 の 活 動	(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会の会議の開催回数	A	定例会を12回、臨時会を3回開催した。
		②教育委員会会議の運営上の工夫	A	議事と協議の内容により、適正な時間配分に努めた。
	(2) 教育委員会の会議の公開、 保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会の会議の傍聴者の状況	A	傍聴席を設置し、3名の傍聴があった。
		②議事録の公開、広報・公聴活動の状況	A	須崎市ホームページに令和3年1月から議事録を掲載している。
	(3) 教育委員会と事務局との連携	○教育委員会と事務局との連携	A	適宜、情報交換・意見交換を行った。
	(4) 教育委員会と首長の連携	○教育委員会と首長との意見交換の実施	A	総合教育会議を2回開催した。
	(5) 教育委員の自己研鑽	○研修会への参加状況	A	新型コロナウイルス感染症の影響により会議はほぼ中止となったが、開催された会議には代表者が参加し研鑽に努めた。
	(6) 学校及び教育施設に対する支 援・条件整備	①学校訪問	A	計画的に全校を一回以上訪問し、教職員とも意見交換を行った。
②所管施設の訪問		C	全委員での施設訪問ができなかった。	

2 委 員 会 の 管 理 執 行 事 務	(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な事項に関する こと	A	校区外通学許可については基準を定め、申請書提出案件についての適正な処理に努めた。
	(2) 教育委員会規則その他委員会の定める規程の制定又は改廃 に関すること	A	規則 12 件（制定 2 件、一部改正 6 件、廃止 4 件）、要綱等 9 件（制定 2 件、一部改正 7 件）の制定及び改 廃を行った。
	(3) 学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること	—	該当なし。
	(4) 事務局及び学校、他の教育機関の職員の任免、その他人事 に関すること	A	適正な人事配置に努めた。
	(5) 委員会の付属機関の委員の任免等に関すること	A	適正な人事配置に努めた。
	(6) 教育施設の敷地の選定及び施設整備をすること	A	須崎小学校プール及び多ノ郷小学校トイレの大規模改修を実施した（令和元年度繰越事業）。 朝ヶ丘中学校トイレ大規模改修を開始した（令和3年度へ繰越）。 学校施設長寿命化計画を策定した。
	(7) 人事、研修の一般方針を定めること並びに所管の職員の懲 戒を行なうこと	A	県教委の異動方針に基づき教職員の異動を行った。
	(8) 教職員の働き方改革に関すること	B	夏季休業中に学校閉庁日を設定し、教職員の心身の健康の保持、増進を図るとともに、教職員が限られた 時間の中で最大限の効果をあげられるよう、勤務時間に対する意識向上に向けた取り組みを行った。
	(9) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を 申し出ること	A	条例議案は、制定 3 件、一部改正を 4 件、廃止 1 件を提案。6・9・12・3月に予算議案を提案。
	(10) 1 件 30 万円以上の教育財産の取得を申し出ること	A	令和元年度に須崎公民館の移転整備を行い、令和2年度から新公民館での運営を開始した。
	(11) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、または 変更すること	—	該当なし
	(12) 教科書の採択及び教科書以外の教材の使用に関すること	A	中学校教科用図書採択を適正に行った。 全小中学校にタブレット及び無線LANを配備した。

3 教 育 長 に 委 任 さ れ た 事 務	(1) 学 校 教 育	① 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着と向上	A	児童生徒の進路を保障するため、基礎学力の定着と学力向上を目的として浦ノ内中学校区で保幼小中連携による学力保障を主題に合同推進会議を設置し、小中合同の会議や授業研究会、研修を行い、学力向上の必須条件である「自己肯定感」や「自己有用感」を高める取り組みを実施した。
		② 生徒指導と教育相談活動の充実	A	教育支援センターに教育相談員及び指導員を配置するとともに、教育委員会事務局にスクールソーシャルワーカー（SSW）を、全小中学校にスクールカウンセラー（SC）を配置し、児童生徒及び保護者、関係者への支援を行った。
		③ 特別支援教育の充実と推進	A	特別教育支援員を配置し特別支援教育の研修を行い、教員等の指導力向上を図るとともに充実に努めた。
		④ 教育内容の充実と教職員の資質・指導力の向上	B	全教職員を対象とした年1回の合同研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 夏季休業中に予定した転入教職員対象の地域体験活動は中止となったが、須崎市内の紹介資料を教材として配付した。 研究主任会や外国語教育推進協議会、若年教員研修会等、教員の指導力向上を目的とした研修会を実施した。
		⑤ 家庭・地域の教育力の再生・向上及び学校との連携	B	浦ノ内中学校区で予定していた「地域ぐるみ教育研究発表会」は中止となった。 朝ヶ丘中学校でコミュニティ・スクールを新たに設置した。 学校支援地域本部事業の推進に努めた。
		⑥ 児童生徒の安全確保	A	スクールガードリーダー2人で全校を定期的に見回り、スクールガードの充実を図った。また各地域において青色回転灯車による巡回パトロールを実施した。 須崎市通学路安全対策連絡協議会による児童の通学路の安全確保のための取り組みを実施した。 関係機関により防犯の視点による危険個所の点検を実施した。
		⑦ 読書活動の推進	A	朝の10分間読書を定着させ、読書習慣の定着へ全校で取り組んだ。

3 教 育 長 に 委 任 さ れ た 事 務	(2) 生 涯 学 習	① 生涯学習の推進	B	<p>婦人会や生涯大学・文化協会など、住民主体の活動団体を支援し、生涯学習を推進したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動は規模縮小となった。</p> <p>浦ノ内地区での地域自主組織の支援を行うとともに、他の公民館での実施に向けての取り組みを行うなか、上分地区で自主組織が設立された。</p>
		② 人権教育の推進	B	<p>小中学校における人権教育や事業所、教職員、市職員への研修会を実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全公民館において年2回の地区別講演会は実施できなかった。</p>
		③ 生涯スポーツの推進	B	<p>須崎市スポーツ振興計画に基づき、年間行事を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大半の行事等が中止又は規模を縮小しての開催となった。</p> <p>須崎市海洋スポーツパーク構想に基づくカヌー場体験学習棟整備が令和3年3月に完了し、計画した全ての施設整備が完了した。</p>
		④ 文化活動の振興	A	<p>各種文化活動の推進、文化財の保護及び保存に努めた。</p>
		⑤ 青少年の健全育成	A	<p>学校・家庭・地域（住民会議）と連携し、青色パトロールなどを実施するとともに、市民会議等と協力し、青少年の健全育成に努めた。</p>
		⑥ 読書活動の推進	B	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業内容を見直しながら活動を行った。</p> <p>ブックスタート事業は88人の参加により実施した。また、子ども司書養成講座は開催中止としたが、希望する小中学校に図書貸出と読書感想のコメント作成を行った。</p> <p>図書館まつりは規模を縮小して開催した。</p>

## 総合評価

1. 教育委員会については、活動をできるだけ公表するよう努めるため、令和3年からホームページへの議事録掲載を行った。教育長及び、教育委員、事務局の連携は適正に保たれており、情報交換も行われている。

小中学校を訪問し、管理職等と意見交換を行い、課題の把握に努めるとともに指導を行った。

2. 学校教育においては、「たくましく、心豊かな人づくり～人・もの・自然にやさしい人づくり」を教育目標に、基本的な生活習慣と基礎・基本学力を確実に身に付け、考える力を養い、自らを律しつつ他人とも協調する姿勢や感動する心を培うため、保幼・小・中の連携、一貫教育の推進、学力の向上、いじめ不登校対策、読書活動の推進等、重点施策の推進を積極的に図った。

キャリア教育の推進では、子どもたちが故郷を愛し、夢や志を持ち、未来に向かって生き抜くための力を育む取り組みを行ってきた。防災・安全教育としては、引き続き防災教育の取り組み等を推進した。

安心・安全な教育環境の整備については、須崎小学校プール改修工事及び多ノ郷小学校トイレ大規模改修工事が完了するとともに、朝ヶ丘中学校トイレ大規模改修工事に着手し、施設環境整備に努めた。また、全小中学校に無線LANの整備及び一人1台端末の導入によりタブレットを配備し、学習環境の整備に努めた。

学校給食においては、給食実施の全校が市内食材を継続して使用することで「地産地消」に努めた。また、中学校給食未実施校への支援として「弁当提供事業」を開始した。引き続き給食センター設置に向けた取り組みが急務となっている。

新型コロナウイルス感染症への対応として、令和2年4月21日から同年5月6日までの間を学校休業とし、感染症の状況を的確に把握するとともに、適切な対応に努めた。

次代を担う児童生徒の教育環境の充実を図るため、小中学校統合計画を令和2年8月に策定した。

3. 生涯学習においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業休止や規模を縮小しての事業取り組みを行った。公民館を拠点とし地域課題を解決する地域自主組織については、浦ノ内地区での取り組みを支援するとともに、他公民館での実施に向けての取り組みを行い、上分地区において設立できた。また、ブックスタート事業や図書館まつりを開催した。

生涯スポーツにおいても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止や規模縮小も余儀なくされた。平成30年度からシーパーク大島で開催している海洋スポーツ体験「COMODO URANOUCI」については、感染症対策を講じたうえで、海上アスレチックのみ8月の1カ月間開催し、1,116人の利用があった。また、スサキOWS2020を開催し、99人の参加のもと実施することができた。平成29年度から取り組んできた須崎市海洋スポーツパーク構想に基づく施設整備を完了させた。

青少年の取り組みについては、青少年育成市民会議大会はコロナ禍により中止となったが、各地区青少年を育てる会の活動等を通して、子どもへの見守りを行うとともに、日常的な巡回活動により、青少年の健全育成に努めた。

以上のように諸課題に取り組みながら解決に努めてきたが、時間が必要なことや財政上の制約もあり目標どおりには達成できていない課題もある。今後とも、効率的、効果的な事務の執行に努め、児童生徒及び市民の立場に立った教育行政を目指し、諸課題の解決に向けた施策を実施する。